

●キトラ古墳壁画公開
5月9日~25日 飛鳥資料館

●国宝法隆寺金堂展
6月14日~7月21日 奈良国立博物館

●高松塚古墳壁画公開
5月31日~6月8日 古墳近くの修理施設



特別展示されるキトラ古墳壁画・十二支像の真(トラ)＝文化庁提供

人類の宝生かせ

奈良県明日香村のキトラ古墳壁画の十二支像が特別公開されるのを記念したシンポジウム「謎のキトラ壁画とそのメッセージと文化遺産の活用」(東アジア文化遺産保存学会、明日香村、朝日新聞社主催)が5日、大阪市北区のリサイタルホールで開かれた。なぜ、高松塚にはない十二支がキトラにはあるのか。保存と活用はどうかあるべきか。考古学や保存科学、画像のデジタル化の専門家が活発な討議を繰り広げた。

- ◇特別講演・討論
- 百橋 明穂さん 神戸大学教授
池内 克史さん 東京大学大学院教授
- ◇討論
- 沢田 正昭さん 国士館大学教授
東アジア文化遺産保存学会会長
- 来村多加史さん 奈良文化女子短期大学教授
- 本田 光子さん 九州国立博物館学芸部博物館科学課長
- 司会は朝日新聞記者・天野幸弘

沢田正昭さん



来村多加史さん



——専門と見解を。
沢田 文化財の保存、修復を専門に研究している。昨年11月、このシンポジウムの主催者の一つである「東アジア文化遺産保存学会」を立ち上げた。いま、中国、韓国、日本に約400人の仲間がいる。各国の文化遺産を協力して守ろう、という狙いだ。

来村 キトラの石室を復元したことがある。いまはほぼ消えている十二支のうち6体を、想像を含め復元した。そのときの経験が踏まえ、近年、「キトラ古墳は語る」という本を書いた。

本田 勤務先の九州国立博物館には、開館から2年半の間に、約460万人の来館者があった。多い日は1日2万人が来てくれる。

大宰府周辺の自然、史跡と一体になった博物館活動を進めており、リビーターが大変多い。

——高松塚には、なぜ十二支の絵はないのだろうか。

来村 二つの古墳の年代は接近しているが、キトラ古墳の方が高松塚古墳で画家は同一人物かと思う。描き手は複数で描くが、デザインしたのはひとりの。デザインした画家は芸術家なので、同じ仕事をさせられるといやがる。キトラで描いたのは違った趣向で、と変わったのでは。その画家は唐の長安に留学した経験があるはず。そうであれば描けないデザインがみられる。

百橋 高松塚とキトラは同じ画系の人だが、1人が描いたとはいえない。高松塚が先にキトラが後だというのが私の見方だ。十二支は古くからあるが、獣頭人身という可能性が高い。

こうした獣頭人身の十二支像は、中国では隋の時代から墓の副葬品である「俑」という人形がある。ただ、中国の十二支は武器を持っていないのに対し、キトラの像は矛などの武器を持っている。なぜ、日本では武器を持つようになったのだろうか。

平安時代には、薬師如来を守る「十二神将」として、キトラそっくりの獣頭人身で武器を持つ十二支像が描かれている。十二支と十二神将を同一視する思想は、8世紀初めにまでさかのぼるのではないか。当時最新だった獣頭人身の十二支像が、仏教の十二神将と最初に結びつけたのは日本だったのかもしれない。

「十二神将」と結合か

高松塚古墳とキトラ古墳を比較すると、四方を守護する四神の絵は双方にある。でも、頭が動物で身体が人間の十二支像はキトラ古墳にしかない。四神と十二支はとても密接な関係にある。



百橋明穂さん

十二支の思想は漢の時代から普及、日本にも早い時期に伝わったようだ。「甲」「乙」などの十干と組み合わせた「干支」で特定の年を指したり、子で北、午で南の方向を表したりするように、時間や空間を12分割する概念として幅広く使われてきた。

キトラ古墳の壁に描かれた十二支像の衣の色は、方位に対応しているらしい。盗掘坑から入り込んだ泥の裏に、南壁に描かれた牛の真っ赤な衣の色が残っていた。各壁3体の十二支像の服は、同じ壁に描かれた四神の色に合わせて北は黒、東は青、南は赤、西は白だ

公開前提に保存／本来の姿残そう／市民が直接参加

バーチャル明日香

「複合現実感展示」の概念図。ゴーグルをかけると(中央)、現実の風景(左)と、立体画像で再現された建物(右)が融合して見える＝東京大学情報学環・池内研究室提供

CG技術を使い 仮想世界に復元



池内克史さん

「コンピューター・グラフィックス(CG)」を使って遺跡、遺構や建造物を立体的な映像に復元する「文化遺産のアーカイブ化」に取り組んでいる。現在、カンボジアのアンコール遺跡を切り替えることができる。

現地では古代の風を感じながら映像を見て欲しい。キトラや高松塚の壁画を博物館で一般公開するのと同じが、古墳の現場でゴーグルをかけるのと、中をのぞいたかのような映像が見られるという仕掛けはどうだろうか。将来は明日香村全域でこんなことができるようになったらいい。

——キトラサイクルや電動カートと連動させてはどうだろうか。明日香村の「まるごと博物館構想」と連携させるアイデアも聞いている。

「複合現実感展示」の概念図。ゴーグルをかけると(中央)、現実の風景(左)と、立体画像で再現された建物(右)が融合して見える＝東京大学情報学環・池内研究室提供

本田光子さん



——十二支の武器は、赤い弓のよう持ち物。中国で後漢時代にこれとよく似た盾があった。実戦には使えないが、この時代の中国の武道には有効な武器だ。恐らくそれが武器の舞の小道具となった残り、ほろか日本までやってきたのではないかと推論している。東壁の黄も西の戌も南の午も矛をついているので、東西南の九支はみんな矛を持っていたのではないかと。矛と盾の組み合わせという点、日本書紀にも出てくる。天武天皇の大葬で舞われたという「櫛節の舞」を連想させる。

百橋 中国の場合、武器を持つ獣頭人身像は必ずしも十二支ではない。平安時代に出てくる十二神将は、普通の服装で様々な武器を持つ姿で描かれている。キトラの絵描きは、日本に入ってきた十二神将と十二支をくっつけて、武器を持つことになったのだろうか。図像の持つ意味とその解釈が変わ

——十二支の武器は、赤い弓のよう持ち物。中国で後漢時代にこれとよく似た盾があった。実戦には使えないが、この時代の中国の武道には有効な武器だ。恐らくそれが武器の舞の小道具となった残り、ほろか日本までやってきたのではないかと推論している。東壁の黄も西の戌も南の午も矛をついているので、東西南の九支はみんな矛を持っていたのではないかと。矛と盾の組み合わせという点、日本書紀にも出てくる。天武天皇の大葬で舞われたという「櫛節の舞」を連想させる。

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

——問題が出てきている。地球温暖化の問題もある。気温が上昇し、古墳にも影響している。

——文化遺産の活用は。

百橋 キトラ古墳で見られた十二支は、「選屠」などの時間や「子午線」などの方向のような様々な形で、生活文化の中に浸透している。それらの概念は当時からあったことを理解してもらいたい。

池内 遺跡を守るには、それを活用することだ。ただ遺跡を破壊することや、地元の人々の生活を乱すことは許されないと。それに、景観を守るためにマンションをつくると、というのかわいそうなお話で、バーチャルリアリティなら彼らの権利も守ることができるとはならないか。

沢田 明日香村の壁画では貴重な体験をした。だから壁画の保存について世界に発信できる。遺跡全体のマネジャー育成の場となることも期待されている。

来村 古墳は墓であり、十二支像からは、画家が被葬者の昇天を願っていたことがうかがえる。学術の名のもとに、そういった思いを踏みにじってはならない。高松塚古墳も遺骨を戻して、本来の姿を残して次世代に引き渡していくべきだ。

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな

百橋 私が一番の疑問は、高松塚古墳もキトラ古墳も造られて1300年、壁画はすっかり残ってきただけなのに人間が発掘されてからあまり経っていない状況、環境を維持することがいいのではないかと。現地で市民が関与するようになりな